

# 継承の使命

活動普及担当委員長

電 貫衛

行くぜ！全日青！

今年ついに日蓮聖人降誕800年のご正當を迎えた。コロナ禍により当初の計画とは違う形になってしまったかもしれないが、こうして降誕800年を迎えることができている。

同じように世の中の行事やイベントもその殆どが開催中止や規模縮小などの形に収まっている。

世の中が緊急事態となると、伝統文化や伝統行事は中々に酷な対応を迫られることになる。それは



想いの結晶こそが伝統の尊さであり、その先人たちの想いの積み重ねを継承してきた人はその重みを

## ご先祖さまと向き合い未来を想う

十分に理解しているからこそ、簡単には捨てることはできないのだから。

そしてこれは全ての家にも当てはまるのではないだろうか。私たちは代々ご先祖さまから命や血脈だけでなくたくさんのもを受け継ぎ、未来へつなげる

ための想いを託されてきているはずだ。暮しまいなどの問題はコロナ禍によってさらに加速していくだろうが、それでも私たちに継承したものを次世代に受け渡す使命がある。

相談を受けるときによく耳にする「子どもや孫、家族に負担をかけたくない」という言葉は自分の

子孫に物理的な負担がいかないように思い遣った言葉だと思いが、振り返ってみ

るとそれはご先祖さまから受け継ぎ、先の未来へつなげるはずの想いを放棄してしまうことにならないだろうか。逆に次世代の受け継ぐ側の立場からすると、自分のところで急に継承の輪から外されたように感じてしまうかもしれない。

負担という、今日の前に見えているだけの問題とするのではなく、過去から連なるご先祖さまから自分自身、そして未来の子孫をつなげるための思い遣りの詰まった使命として向き合うことが何より大切なのではないだろうか。

※ ※

■電 貫衛 昭和58年生まれ、古河市本成寺副住職、茨城日青会、活動普及担当委員長